

「ゆっくり急ぐ」観点で



美郷町長

松田 知己

明けましておめでとうございます。記録的な豪雪や爆弾低気圧、そして秋口の高温など異常気象だった印象が強い一方、皇太子殿下のご来町やロンドンオリンピックでの感動など、振り返るといろいろな出来事があった昨年。改めて激動だった一年を振り返り、「今年こそ、穏やかながらも活気溢れる年にしたい」と決意も新たに新春をお迎えのことと存じます。

さて、美郷町にとっての昨年は確かな歩みの一年でした。施策の柱にしている「まちづくり戦略プロジェクト」に基づき、全園・全校で安全・安心のメールシステムを稼働させたほか、県内各大学との連携事業も本格的に着手し、さらに課題だった温泉の経営統合も果たしました。そして最も象徴的なことは、美郷中学校の開校です。これで3地区の生徒が一堂に会する体制になりました。また、開

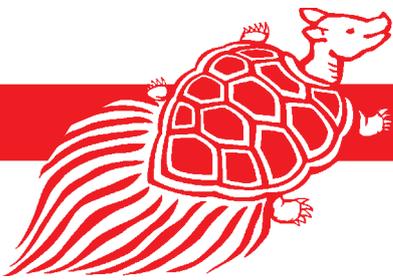
校直後の体育大会では目覚ましい活躍を遂げ、「美郷中学校ここに在り」と存在感を示すこともできました。こうした過程の中で生徒は鍛えられ、自分の立ち位置を自分で見つけ、困難を切り開いていく逞しい大人に成長していくだろうと思っております。また何より、同じ釜の飯を食うことで生まれる連帯感や町民意識は、必ずや今後の町づくりの原動力になります。着実な歩みを重ねたい美郷町のためそのものだろうと思えます。

こうした流れで迎える平成25年も、将来に大きな意味を持つ年となります。まずは、学校再編計画に基づき進めてまいりました千畑地区及び仙南地区の小学校統合を終了いたします。その結果、美郷町では認定こども園から小・中に至る教育体制の整備が完結いたします。まずは地区単位の認定こども園で集団性を培い、小学校はそのままの集団で学習習

慣を育み、そして中学校では、母集団が大きくなることで切磋琢磨の環境を強化し、心身を鍛える。こうした推移で経験を積むことは、必ずや高校生や社会人になった際の順応力や対応力でプラスにつながると私は信じております。もちろん、引き続き「まちづくり戦略プロジェクト」は計画的に推進していきます。また、学校統合で空いた校舎の活用にも鋭意取り組みます。そのほか、産業振興として農工商連携による地産外産の推進、他地域や団体との交流による地域活力の創出などにも取り組んでまいりたい考えです。

先月の「就任あいさつ」で触れております「第一ステージ」のゴールが見えてくる平成25年。改めて、冷静な思慮と迅速な行動を意識する「ゆっくり急ぐ」観点で、今年もがんばってまいりますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。





佐竹義重公に学ぶこと



美郷町議会議長

高橋 猛

新年明けましておめでとうございます。正月は、大晦日とわずか一日の違いですが、前の年の嫌な事を忘れ、気持ちを新たに頑張ろうという思いになれる日でもあります。今年こそ、いや今年もよい年でありませうように。

ところで昨年の町の三大ニュースと言えば皇太子殿下から来町頂いたこと。新生美郷中学校が開校したこと。町長が三選されたこと。かもしれないですが、私にはもう一つ忘れてはならない事がありました。それは、佐竹義重公没後四百年記念事業であります。私は、正直言って秋田藩の初代藩主佐竹義宣は知っていましたが父親である義重は知りませんでした。今回の義重公との出会いで、二つの事を学びました。一つは大事な局面での決断であります。関ヶ原の戦いの後、徳川家康から当主である義宣に「出羽の国」への国替えが伝えられた時に、急進派の諸老が家康との決戦

を主張して挙兵を強く迫ったが、義重は得策では無いと判断し、家臣を説得して出羽の国に移動する事を英断されました。もし家康との決戦を選択していれば、六郷に来られる事は無かったかもしれません。人は生涯の中で様々な選択、決断を迫られる事がある訳ですが、悔いのない英断をしたいものです。

いま一つは、義重が現在の六郷の町並みを作られた事です。記念事業の資料によれば、六郷の中心地は城下町として永禄二年（1559年）に六郷氏によって作られ、神社とお寺を招いて町の周囲を固めたが、慶長七年（1602年）新しく城主となった義重が、馬町・米町を付け足し、さらにお寺を招き秋田藩内陸南部最大の城下町を築かれたとの事。驚くべき事は、旧町部は道路と神社とお寺がその時と同じ場所であり、道路の幅も450年前と全く変わっていないという事です。この事



は現存している天明の絵図が証明しています。全国に城下町は数多くあるわけですが、その多くは、時代の変遷とともに町並みは勿論、道路網も変わり当時を偲ぶものが一部分しか残っていない所が大半だと思えます。しかしながら『六郷宿』は、どこを歩いても450年前の歴史の上を歩いていることになるという事に、驚愕すると共に『地域遺産』として未来永劫、残し伝えるべき貴重な美郷の遺産であると思えます。

今回の記念事業にあたり、十年も前から準備を進められた実行委員の皆様衷心より敬意と感謝を表しますと共に、義重公の「英断と偉業」を心に刻み町づくり努力して参りたいと思います。

あらためて本年が皆様にとりまして良い年になりますよう祈念し挨拶いたします。